

「トイレに行きます」

～認知症ケアではなく、ひとりの人として～

特別養護老人ホーム櫻ホーム西神

# 社会福祉法人 桜谷福祉会の理念

特別養護老人ホーム  
桜ホーム西神



1. 公益的事業の積極的取組
2. 人権を擁護する
3. 発達支援・自立支援に向けたサービスの確立
4. 医療・教育・福祉の連携強化
5. 地域社会との共生

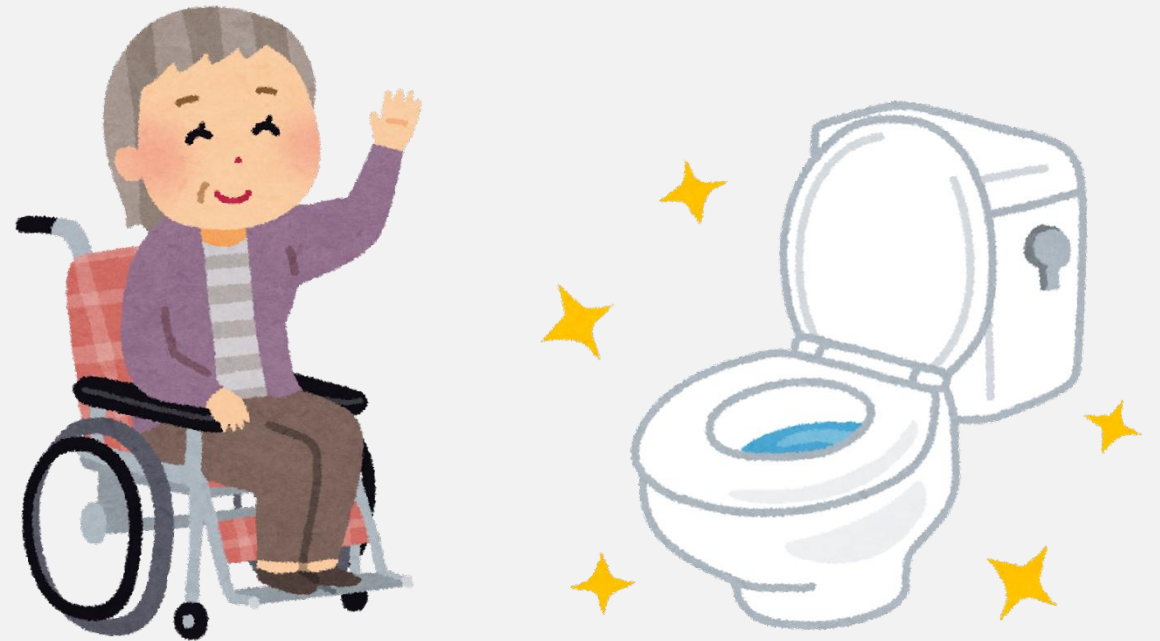


# 目次

- A様について
- 入居後のA様の状態
- ケース記録を読み込んだ結果
- 理学療法士との連携
- トイレ誘導実施
- アセスメント、実践結果
- まとめ（A様・職員）
- 総括



今回の発表は、  
A様がトイレに行きたいという気持ちに寄り添い、  
支援を進めていきました。



# 入居後のA様（入居日：令和3年8月17日）

## 【既往歴】

平成24年

左大腿骨転子部骨折

平成27年：胸椎圧迫骨折

令和3年：腰椎圧迫骨折

軟性コルセット  
使用

皮膚状態、衛生状態が  
良くなかった



## 【現病歴】

糖尿病

アルツハイマー型認知症

高血圧症

気分の浮き沈みがある

体動、独語が激しい

バルーンカテーテルの自己抜去

# ケース記録を分析

A様が「トイレに行きます」という発言が多い。

# ケース記録を分析

- 日中、夜間とも大声を出される。車いすに座っていても立とうとされる。
- ベッドで寝ていて起きようとされる。
- 職員が排せつが関係しているのではないかと気付く。



# 理学療法士との連携



理学療法士と立位介助の統一を図る。



手すりを使用することで、しっかり立つことが出来る。



## トイレ誘導実施

- トイレに行く条件が揃い、職員がトイレ誘導を行う。  
→ 便座に座ると、自ら便を出そうと力むことがあった。

## アセスメント



理学療法士と会議、カンファレンスを行った結果、  
下肢筋力低下があるのではと考え、目標設定を行う

A様の希望や職員の声掛けにて

- ・1週目1日1回トイレ使用
- ・2週目1日2回のトイレ使用
- ・3週目1日3回のトイレ使用

日	ベッド等	便回数	トイレ	便回数	排泄量	水分摂取量	トイレ希望等
1	2	0	4	0	1280	1,400	本人：0 声掛け：2
2	3	1	3	0	1918	900	本人：1 声掛け：5
3	1	0	3	0	1745	950	本人：0 声掛け：4
4	1	0	5	4	1404	800	本人：0 声掛け：1
5	2	1	5	1	1073	750	本人：0 声掛け：7
6	1	0	5	1	1019	750	本人：1 声掛け：5
7	0	0	11	0	1550	1200	本人：5 声掛け：6

## 実践した結果

前

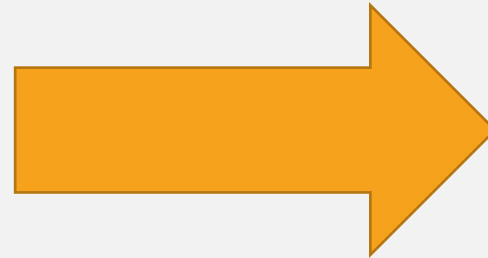
脚が震え、短時間  
しか立てない

職員がトイレ  
ペーパーで陰部を  
拭く

後

脚の震えが無くなり、立  
つときに余裕が出来る

自身でトイレペー  
パーで陰部を拭く  
また、トイレの水を流す  
ようになる



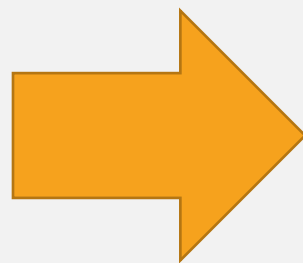


## A様のまとめ

前

パッド内に尿失禁が多い

皮膚状態が悪い



後

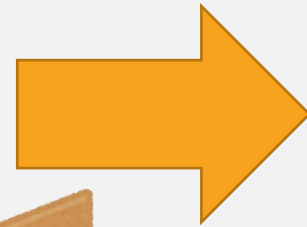
パッド内での排せつが減少。  
トイレ内での排せつが増加する。

皮膚状態が改善される。

## A様のまとめ

前

夜間、独語が多く、  
睡眠時間が短い



後

独語が減少。睡眠  
時間も増加。

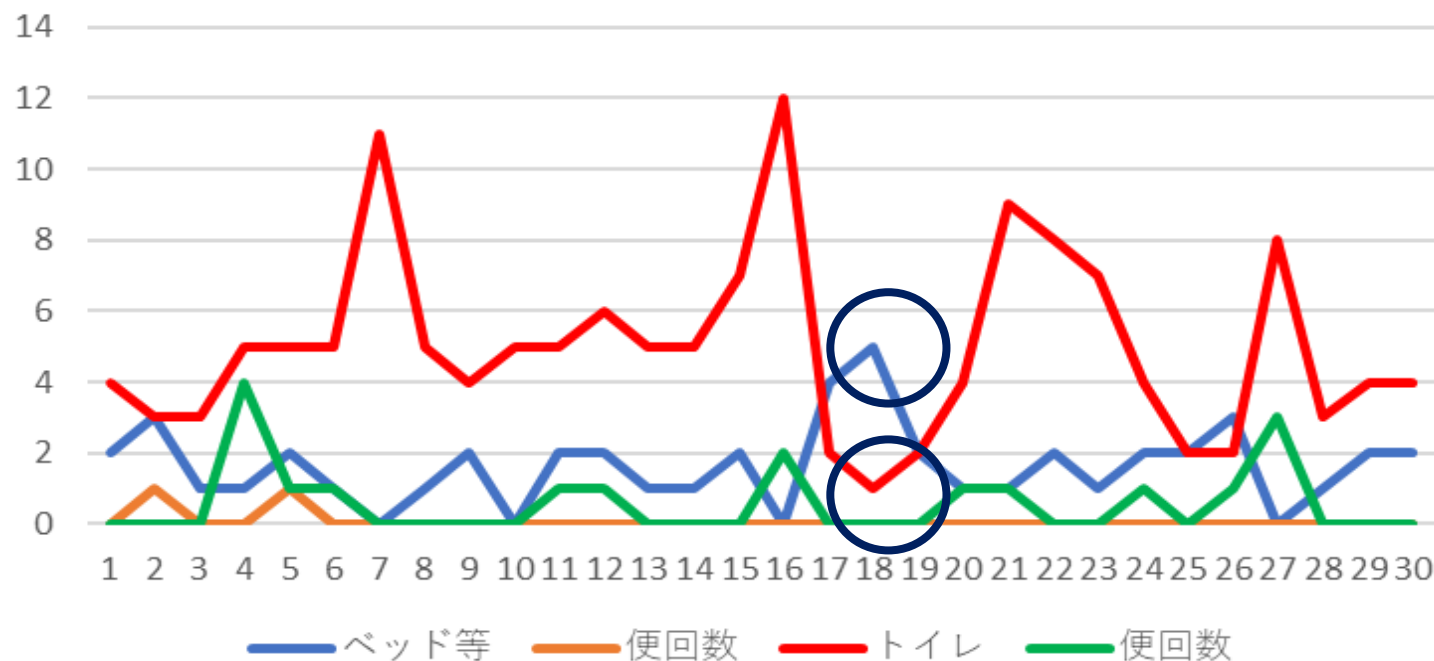


## A様のまとめ

- 自身で、車いすを自走し、トイレに行ってズボンを下して便座に座るようになる。
- 休みたいときは、自身で自走し、ベッドに戻り寝られる。自分の意思で動くようになる。

## A様のまとめ

トイレに行きたくも行けず、一人でトイレに行こうとしてベッドからずり落ちる転落事故があったが、行きたいときにトイレに行き排せつすることで、転落事故が減少する。



## 職員のまとめ

- 入居者のADLの状態に合わせて、ケアを変える必要性を学んだ。





## 職員のまとめ

- ユニット全体で意識の共通化を図ることができた。

## 職員のまとめ

- A様の方で手すりを使いながら安定して立てるようになったり、トイレ誘導で、ズボンを着脱、トイレットペーパーを三角折にする、水を流す、リハビリパンツとズボンを上げるという今までされていなかった行為が見られるようになりうれしく感じるようになる。

## 職員の課題

- A様が自立しトイレに行かれるようになり、転倒リスクが高くなっている
- 継続した尿量や排せつ状況のチェック

# 総括

## ご入居者の生活支援について

- 本人の意思・希望を汲み取り、どのような支援をしていくか多職種で考え協力する。
- ご入居者のADL・QOLの維持、向上を図る支援。業務志向型ではなく、その人らしさを追求した支援。
- 出来たことに対して、ご入居者、ご家族、職員みんなできびを共有し化を図る。
- 排せつ表をつけることで排せつの量と体調が関係していることが分かった。

ご清聴ありがとうございました。

